

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690200314		
法人名	トータルメディカル津沢株		
事業所名	グループホームひだまり南星		
所在地	富山県高岡市佐野1095-2		
自己評価作成日	令和2年8月18日	評価結果市町村受理日	令和2年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	令和2年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひだまり南星は介護複合施設あったかハウスひだまりの中にある認知症対応型共同生活介護の施設です。明るい環境の中、各ユニットの利用者様の能力に応じて日常生活作業に取り組みされている。家族様の生活に対する意向を聞きながら、できるだけ車椅子を使用しないで移動をして頂いている。
 口腔機能を高めるために毎月の口腔ケア研修では、毎月各利用者の問題点をあげ、回答を頂き、口腔機能低下防止に努めている。具体的には、うがいが出来ない人に対し、マッサージの仕方を学んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・訪問美容の依頼には個々の利用者に寄り沿いながらの(職員で勤務を兼ねているため)整容がされている。
- ・複数のサービス事業所が敷地内にある為、緊急時には協力し合っ対応することができる。
- ・食事は、事業所内で職員が調理しており、高齢者に好まれる優しい味付け、野菜をたくさん摂れるメニューが利用者に好評である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアと玄関に基本方針と理念を提示し、また会社の理念に基づいて事業所独自の理念をつくり、管理者、職員と共に地域と関わりを持つように努めている。	スタッフにアンケートをとり、事業所独自の理念を話し合っ決めて、法人理念と併せて玄関・フロアに掲示している。また、理念の理解をより深めるため、9月開催の研修を活用して話し合う予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のストレッチ体操に参加したり、小学校の発表会に参加し児童さんと交流している。また、祭りの獅子舞も玄関先で披露して頂いている。	公民館に出向き、体操やいきいきサロンに参加している。地域の祭りの獅子舞が事業所前の駐車場を訪れたり、五位中学校より14歳の挑戦を受け入れたりしている。しかし、隣接する事業所との関わりがなく、町内会には入っているが、地域の情報が届いていない状況である。	理念にある「地域との共生」の実現のためにも、地域の一員として町内会との連携を深めるための工夫や働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で民生委員の方々にホームでの関わり方や、認知症デイサービスでのユマニチュードの取り組みを伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	水害マニュアルの作成や電気停止した際の助言を頂いた。感染対策についても周知徹底と新しい生活様式について意見を頂く。	2ヶ月に1回開催しており、隣接する地域が重なるため、複数の民生委員・地域包括支援センターが参加している。議事録は記録作成に留まり、会議出席者にも、次回の開催時に口頭報告のみとなっている。	今後は、欠席者に議事録を届ける等、メンバーの人々が会議に興味・関心を持ち、積極的に関わられるような働きかけを求める。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染防止対策について質問したり、指導、協力をお願いしている。	法人本部が代表して市高齢課よりコロナ対策等の助言をもらっている。コロナ禍のため、市から届く100歳のお祝いは家族が自宅で受け取った。水害マニュアルの作成を検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度『身体拘束廃止委員会』を開催し、現状報告と、事業所の指針を皆で理解し合う。スピーチロックについて何度も話し合いをする。	安全のため24時間施錠しており、ほぼ全員が夜間のペットセンサーを利用している。3ヶ月に1回各事業所で「身体拘束廃止委員会」を開催しており、各自が目標を持って取り組むために、本年度は「虐待の芽チェックシート」を活用して職員にアンケートを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアを振り返る機会を作り、不適切なケアについてアンケートをとり、虐待の芽を見直す機会を作っている。夜勤帯はユニット同士で連携が図れるように対策をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内に行行政書士のケアマネージャーがいるので管理者は情報や相談に応じてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項と契約書の説明を行い理解して頂いている。また、新たに加算を算定する際には、追加で説明文書を発行し、納得の上署名、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置している。契約時に苦情、相談窓口の説明を行っている。	請求書に「ひだまり通信」や利用者の作品(ぬりえ等)を同封しており、日常の変化についても、訪問時や電話で様子を伝え、家族からの意見を引き出している。また、現在コロナ禍ではあるが、玄関スペースで面会したり、iPadを活用するなど、意見や要望を伝えられる機会づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は朝の申し送りや、現場での意見を定期的に聞くようにしている。また、月に一回の管理者会議で職員の意見や要望を代表者に伝えている。	ユニット会議、管理者会議は各々月に1回開催しており、職員の意見を代表者に伝えている。職員の意見は日々の業務の中や朝の申し送り時に引き出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課において管理者、主任は個々の職員の評価を行い報告を行っている。各部署との連携をとり、現場環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各グループホームが協力し年6回の研修会を行い、また訪問看護、消防署、オムツ業者等協力を依頼し定期的に研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は認知症グループホーム協会開催の研修会に参加し知り得た内容を実践に活かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時や入居時に聞き取りを行い不安、要望の把握に努めている。良い関係性を作るために生活歴や性格についてアセスメントを行い共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面談や、契約時に不安要素や、要望について聞き取り、出来る限りの不安解消、要望に応えられる様努めてる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の利用者の思いや能力に応じた支援に努めている。十分な聞き取りと説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として尊敬する思いを持ちながらその人の能力に応じて日常生活作業のお手伝いをお願いしたり、一緒に行き、教えていただきながら共同生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは体調面、精神面に変化があれば連絡を取り情報共有している。必要あれば電話で会話したり、面会をお願いし、少しでも穏やかに過ごしていただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外でもご自宅の近所に住む住民の方から面会依頼あれば来所頂いたり、家族が遠方の際はお墓まりに職員が付添い本人の要望に応じている。馴染みの美容室があれば訪問して頂き関係を保っている。	利用者の希望を聞きながら馴染みの場所へドライブに行ったり、公園や海に行くなど楽しんでいる。遠方の親族にも、利用者の現在の様子を知らせる写真や手紙を送付するなど、関係性が継続できるような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合い、支え合いを理念の中に取り入れ、日常の様子を常に把握し問題が起きないように、個々の性格を考慮しながら職員が間に入り利用者同士の関係性を観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の家族から面会についての悩みや相談に応じている。療養型施設に入所された方の様子をうかがう等家族の思いに共感している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や、計画の見直しの際に面談を行い生活に対する要望、意向を聞いている。発語の無い利用者に対しては嗜好を考慮しながら本人の思いに添えるように努めている。	利用者が自分らしく暮らせるように、面会時や電話で家族や利用者とは話し合いながら本人の意向に添えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの聞き取りやフェイスシート等で把握し、必要時は担当していたケアマネに必要な情報を聞き、職員皆が共有できるように日々情報伝達をしてる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過記録、業務日誌の申し送り事項の記載、連絡ノートを活用し局員間で共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体状況に変化があった時や、短期目標の見直しの時には新たな課題に対して本人、家族、看護師、主治医、福祉用具関係者等と話し合い意見や助言をもとに介護計画を作成してる。	介護計画は6ヶ月毎に見直しをされており、申し送り時に職員と意見を交換し、担当者会議で本人や家族を交えて話し合いがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	9人の介護計画をファイリングし普段から確認できる位置に設置し、できるだけプランに基づいたケアが行えるようにしている。日々の様子、気づきについて記録に残し職員が業務に入る前に目を通し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接するデイサービスの機能を生かし、身体状況の変化に応じて特殊浴を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心身の状況や本人のニーズに応じて、公民館でのストレッチ体操に参加し地域の方と交流し良い刺激を受ける。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には今までのかかりつけ医との継続を支援しているが、家族の状況により往診依頼を受けた時には、協力医を紹介し、本人、家族の希望に応じて定期的な往診を行っている。	入所時に5割の方が協力医療機関の受診を希望しており、緊急時には担当医の指示を受けながら支援を行っている。基本的には家族同行の受診となっているが、状況によっては協力医に往診を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が定期的に勤務し利用者の健康観察を行っている。日々、それぞれが連携をとり、報告、連絡、相談を行っており、必要時には主治医と連携をとり受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室と連絡を取りながら、受け入れできる条件等を伝え、時折面会し、安心して退院して頂けるよう家族様への説明も随時行っている。普段から病院側からの入所の相談を受けながら信頼関係を築ける努力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず、入居時に家族に事業所の方針を説明している。身体状況に応じて随時説明をし、家族の考えを確認している。看取り等の希望があれば主治医、看護師と連携をとり、介護職への学習会を行いながら出来る限りのケアに取り組んでいる。	入所時に本人と家族に看取りの説明を行っているが、希望者は8割ほどとなり、延命治療拒否事前指示書を提出した家族もいる。重度化した場合は本人と家族を交えて話し合い、支援をしている。看取りの外部研修会に看護師や管理者の参加はみられるが、結果が職員へ周知されていない状況である。	今後は、看取りに関する情報を職員で共有し、機会を捉えて研修や話し合いの場を設けられることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し職員の目のつくところに掲示している。会社の全体研修で看護部や、救急隊等の研修の計画をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の消防訓練を年2回を予定している。水害時のマニュアルを作成し地域との協力について運営推進会議で話し合っている。	備蓄品は隣接するホームの2階にあり、保存食セットは保管されているが、量が十分ではなく、不足分は準備中である。また、火災訓練は夜間しか行っておらず、訓練には自治会等からの参加が得られていない状況である。今後は、水害や地震避難の訓練も実施する予定としている。	水害や地震発生時の避難シュミレーションやマニュアル作成など、実際の避難に沿った訓練や対処方法の検討が望まれる。また、事業所の理解を深めるためにも、自治会に働きかけ、近隣住民との協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の呼び方について「ちゃん」付けが見られ、普段からの「不適切なケア」を見直すためアンケートを実施し自分のケアの振り返りを行った。	アセスメントを行い利用者が望む生活支援に努めている。また、全職員に日頃のケアについてのアンケートを実施し、利用者の誇りやプライバシー確保について再確認し、質の向上につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物の際には食べたい物をお聞きしたり、化粧品等購入したいものがあれば希望に添えるものを購入している。自身の思いを言いやすいような言葉かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて自由に静養して頂いたり、したい日常作業、脳トレを能力に合わせて提供している。スピーチロックに対して学習会をするなど改善を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整髪、月に一度希望に応じて散髪ができるようにしている。意思疎通可能な方は自身で洋服を選んだり、意思疎通困難な方でも同じ衣服ばかりにならないよう気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて野菜の収穫やおにぎりを握ったり、もやしの根取り、お盆拭き、食器拭きを一緒に行う。	以前は、利用者にスーパーのチラシを見せて、食べたい物を選んでもらい、買い物に出かけていたが、現在は、コロナ禍のため外出が厳しい状況である。気分を変えるために月に4食分は業者の商材を活用し、外食の代わりとしており、季節に応じたおやつ作りも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の記録を行っている。水分摂取難しい場合は好みの飲み物やゼリーを提供し、水分量の確保を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの介助、見守りを行っている。うがいが出来なかったり、不十分な方はスポンジブラシや口腔用ティッシュを使用している。また口腔ケア研修にて個別指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えのある方にはその都度迅速にトイレ誘導を行っている。排泄間隔を確認し、声掛け、誘導を行っている。	日中は全員が紙パンツにパットを使用しており、個別に支援している。夜間は利用者の睡眠優先のため、紙おむつとパットを利用しており、トイレでの排泄希望者には希望に沿って対応するなど、本人に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないように摂取量を把握し、起床時に希望者には牛乳を提供している。便秘の際は、トイレ誘導時に腹部マッサージを施行する。便の形状を常に把握し内服の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回、入浴日を設けているが無理強いはずせず個々に合わせて入浴の支援をしている。	週2回の入浴日があるが利用者の要望があればいつでも使用できるようにしている。また、利用者自身の拒否や体調不良の場合は日程をずらしたり清拭に変えるなど、臨機応変に対応しており、利用者はりんご湯やゆず湯で楽しめている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況に合わせて適度に静養を行っている。希望があった場合は、昼夜逆転にならない程度に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師が行っていることで介護員の理解がやや少ないが、変更時はその都度、看護師から申し送りがあり、連絡ノートへの記載をお願いしている。副作用については、状況変化を必ず支援経過に記録を残すことを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や興味のあることを把握し、塗り絵、脳トレ、習字を行っている。日常生活作業についても、食器拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ等、個々の能力に応じて役割を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	積極的に施設周囲を散歩し、気分転換を図ってもらっている。定期的なドライブ以外でも本人の精神面に変化があった時は外出し気分良好を図っている。お墓参り等希望のあった時には個別で付添い支援を行う。	コロナ禍のため外出が厳しい状況にあるが、天候の良い日は職員と事業所の周辺を散歩している。また、家族と外の長椅子に腰かけて過ごしたり、畑で野菜作り、収穫を楽しむなど、できる範囲で外に出る機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の要望に応じて所持し、希望があった際は買い物と一緒に掛けたり、代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があった時には適切に対応し安心して頂いている。また、本人が気分不良時はこちらから家族に連絡をし直接会話ができるような支援を心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同で作ったカレンダーを貼り、塗り絵や貼り絵をの個人作品を掲示している。行事の写真を月毎に変更し季節を感じてもらおうようにしている。空調には気を使いその都度調整を行っている。	終日、共有空間で過ごす利用者がほとんどである。利用者同士の相性に考慮した席を用意したり、一人用のスペースを設置するなど、居心地の良い空間づくりに努めている。また、皆で作ったカレンダーや貼り絵が壁に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際の席は決まっているが、その他の時間は自由に過ごしてもらうことを基本に、ホールと廊下にソファを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのものがあればお聞きし出来る限り居心地の良い空間にできるよう配慮をしている。昔の写真や家族の写真を飾っている。	居室にはエアコン、ベット、筆筒、洗面台が備え付けられており、利用者は居室で趣味を楽しんだり思い思いに過ごしている。壁にお気に入りのぬり絵や家族の写真を貼っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に分かりやすく名札を掛けたり、トイレの位置が分かるような案内表示をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	理念にある「地域との共生」の実現のためにも、地域の一員として町内会との連携を深めるための工夫や働きかけを期待したい。	運営推進会議で地域の取り組みを聞きながら助言を頂く。	コロナ禍ではあるが、地域の清掃等、地域での行事に参加できる利用者には、参加いただく。	6ヶ月
2	4	今後は、欠席者に議事録を届ける等、メンバーの人々が会議に興味・関心を持ち、積極的に関わられるような働きかけを求める。	欠席者には議事録を郵送する。自治会長様の仕事の都合で出席いただけないことが多いので運営推進会議の場に限らず、直接相談をしていけるようにする。	運営推進会議の議事録を郵送するとともに、地域への相談があれば電話連絡等で直接相談する。自治会長様の出席が困難であれば、副会長様の出席も依頼していく。	3ヶ月
3	33	今後は看取りに関する情報を職員で共有し、機会を捉えて研修や話し合いの場を設けられることに期待したい。	定期的に担当看護師に勉強会を依頼する。全員が参加できるような話し合いの場を作れるように主任等現場の意見を聞く。	落ち着いて参加できるような環境を整えるために勉強会、ミーティングの時間の設定について検討していく。	3ヶ月
4	35	水害や地震発生時の避難シュミレーションやマニュアル作成など、実際の避難に沿った訓練や対処方法の検討が望まれる。また、事業所の理解を深めるためにも、自治会に働きかけ、近隣住民との協力体制の構築に期待したい。	施設内での訓練を定期的に行えるようにし、地域の方と一緒に訓練が行えるように運営推進会議の場で助言を頂く。	施設内での年間防災計画を立てる。コロナ禍ではあるが現在、避難訓練がどのように行われているか地域の組織に働きかける。	6ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。